日赤図書館雑誌　2014；21(1)：22-28

◆研修会特集◆

医学中央雑誌にみる 恩賜財団済生会100年（第２報）

髙 崎 千 晶

抄録：2011年に100周年を迎えた社会福祉法人恩賜財団済生会について、医学中央雑誌の冊子体およびWeb版を用いて設立から現在までの業績調査を開始した。済生会と医学中央雑誌の創成期ならびに医学中央雑誌に掲載された済生会の記事を紹介する。

Key Words：済生会、医学中央雑誌、業績調査

Ⅰ．はじめに

社会福祉法人恩賜財団済生会は、2011年に創立100周年を迎えた。それを記念し、医学中央雑誌を用いて、設立から現在までの業績調査を開始した。本稿では、済生会と医学中央雑誌の紹介および本研究についての報告をする。

なお、第１報は2011年７月24日、第28回医療情報サービス研究大会において発表した。また、本稿は2014年７月19日、日赤図書室協議会の赤十字・済生会合同研修会において、済生会の取り組みとして事例発表した内容に加筆したものである。

Ⅱ．済生会とは

１．概要

40都道府県に支部があり、79の病院および371の医療･福祉施設を運営する、日本最大の社会福祉法人である。2014年４月より秋篠宮殿下が第６代総裁を務められている。

1951年(昭和26年)、医療法による公的医療機関に指定され、1952年(昭和27年)、社会福祉法人として認可された。

設立の目的は、生活に困っている人を医療で助ける「施薬救療」である。経済的に困窮している人々を無料または低額で診療する「無料低額診療事業」を積極的に行っているほか、済生会生活困窮者支援「なでしこプラン」を実施している。

なでしこプランは、医療・福祉にアクセスできない人々へ訪問診療、健康診断、予防接種などを無料で提供するもので、対象者はホームレスや家庭内暴力（DV）被害者、刑務所出所者、在留外国人などである。

また、1962年（昭和37年）より、日本唯一の診療船「済生丸」が就航した。３代目済生丸が老朽化した折、維持費の問題から廃止の声も挙がった。しかし「瀬戸内海島嶼部の医療に恵まれない人々が安心して暮らせるよう

TAKASAKI Chiaki
済生会川口総合病院

医療奉仕につとめる」という理念を守り、事業を継続した。現在は4代目の「済生丸100」が岡山・広島・香川・愛媛4県の65の瀬戸内海の島々を巡回している。

2．創設

創立は1911年（明治44年）である。当時の日本は、からくも日露戦争に勝利したことで好景気に沸き、経済は大きく成長した。貧富の差が開き、いわゆる成金が続出する一方、貧困にあえぐ人々は病にかかっても充分な治療を受けられず薬もないまま死に至る状況であった。

その年の2月11日、明治天皇は当時の首相桂太郎を御前に呼び、「恵まれない人々を医療で救うように」とお手元金150万円を下賜した。このときに発したおことばは「済生勅語」と呼ばれる。済生勅語は次のとおり。

「朕惟フニ世局ノ大勢ニ随ヒ國運ノ伸張ヲ要スルコト方ニ急ニシテ經濟ノ状況漸ニ革マリ人心動モスレハ其ノ歸向ヲ謬ラムトス政ヲ為ス者宜ク深ク此ニ鑒ミ倍々憂勤シテ業ヲ勸メ教ヲ敦クシ以テ健全ノ發達ヲ遂ケシムヘシ若夫レ無告ノ窮民ニシテ醫藥給セス天壽ヲ終フルコト能ハサルハ朕カ最軫念シテ措カサル所ナリ乃チ施藥救療以テ濟生ノ道ヲ弘メムトス茲ニ内帑ノ金ヲ出タシ其ノ資ニ充テシム卿克ク朕カ意ヲ體シ宜キニ随ヒ之ヲ措置シ永ク衆庶ヲシテ頼ル所アラシメムコトヲ期セヨ」

その大意は「私は思う。わが国は世界の大勢に対応して、国運の伸長を急務としてきた。経済情勢はようやく改まったが、国民の中には考え方を誤る者も出てきた。政治を預かる者は、動揺する人心を考慮して、これに十分な対策を講ずる必要がある。勧業と教育に意を用い、国民の健全な発展に尽力しなければならない。もし、国民の中に頼るべきところもなく、困窮して医薬品を手に入れることができず、天寿を全うできない者があるとすれば、それは私が最も心を痛めるところである。こうした人々に対し無償で医薬を提供すること（施薬救療）によって命を救う『済生』の活動を広く展開していきたい。その資金として皇室のお金を出すことにした。総理大臣はこの趣旨をよく理解して具体的な事業をおこし、国民が末永く頼れるところとしてもらいたい」となる。

皇室には恵まれない人々を救う伝統があり、古くは聖徳太子が593年に作った施薬院にまで遡ることができる。済生会の「施薬救療」の精神もこの流れにあるといえる。

桂首相はこの事業の名称を、天皇陛下からいただいたという意味で「恩賜財団済生会」とした。しかし、「皇室だけが行う事業ではない、国民が一緒に行うのであるから、恩賜財団という名は適切でない」と明治天皇はお許しにならなかった。「恩賜財団」を2行に分けて組み文字にし、小さく表記することで解決した。

桂首相は済生勅語を受けてから準備を進め、半年後の5月30日に済生会が発足した。官民合わせて2,400万円の寄付があったという。当時の国家予算は5億円、建設中だった東京中央駅の額は91万円であったことから、下賜された150万円および寄付金2,400万円の大きさが推し量れる。

初代総裁・伏見宮貞愛親王殿下は、済生会の事業の精神を歌に詠まれた。

「露にふす　末野の小草　いかにとぞ
　　あさ夕かかる　わがこころかな」

（生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人はいないだろうか、常に気にかかってしかたがない）

この趣旨を忘れないように、この「撫子の歌」にちなみ、撫子の花葉に露をあしらった紋章を1912年（大正元年）から用いている（図１）。

図１

Ⅲ．医学中央雑誌とは

１．概要

「医中誌 Web」は、インターネット上でサービスされている医学関連文献データベースであり、収載雑誌数はおよそ5,000誌、文献数は871万件以上にのぼる。医中誌 Web の前身が雑誌「医学中央雑誌」である。創刊から Web 版になった現在に至るまで、医学中央雑誌刊行会が提供している（2002年より NPO 法人）。

2011年10月18日より、国立国会図書館デジタルコレクションのコンテンツのひとつとして、創刊号（1903年）から410巻（1983年）までのすべての冊子体のページの画像が公開された（http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1732824）（図２）（図３）。

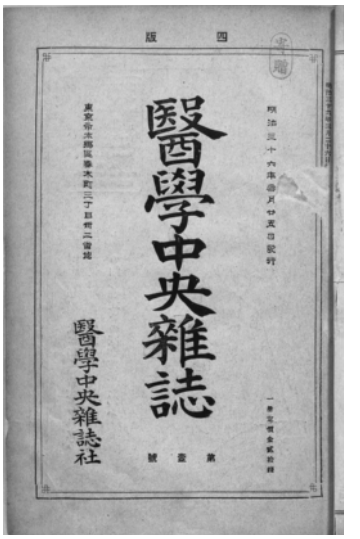


図２

図３

２．創刊

1903年（明治36年）、東京・千駄木の開業医・尼子四郎が創刊した。２号掲載の「謹告」（図４）には、

「醫學中央雜誌ハ獨逸國ニ於テ盛ニ行ハルヽ處ノ中央雜誌 Centralblatt ノ中ニテ、特ニ博覧ノ便アル醫學全科中央雜誌 Centralblatt für gesammte Medicin ニ

謹告

醫學中央雜誌ハ獨逸國ニ於テ盛ニ行ハル、處ノ中央雜誌Centralblattノ中ニテ、特ニ博覧ノ便アル醫學全科中央雜誌 Centralblatt für die gesammte Medicin ニ倣ヒ。主トシテ、內國醫事雜誌ニ登載セラレタル論著及ビ實驗ヲ各科ヲ分チテ悉皆漏ラサズ抄錄シ。加フルニ、各科名家ノ論說。外國醫事雜誌ニ登載セラレタル論著及ビ實驗中特ニ診斷幷ニ治療ニ關スルモノ、抄錄。內外學會紀事。新藥及ビ新器械。內外新刊書籍等ヲ掲載シ。以テ、熱心ナル研究家ニハ文籍穿索ノ便ヲ與ヘ、多忙ナル實地家ニハ一見醫界ノ趨勢ヲ知ルノ益ヲ與フルヲ主旨トス。

醫學中央雜誌ハ右ノ主旨ヲ實行センガタメ

（一）毎月一回定期ニ發行シ

（二）毎號ノ紙數ヲ壹百頁以上ト定メ

（三）全部ヲ論說、內國新報、外國新報、學會、藥品及器械、新刊書籍ノ六欄ニ分チ、各欄ノ記事ニ注意スルハ勿論

（四）特ニ內國新報欄ニハ意ヲ注ギ、且ツ前年中ノ報告ハ翌年一月マデニ悉ク掲載シ了ルヲ期ス

醫學中央雜誌ノ期スル處ハ固ヨリ之ノミニ止ラズトイヘドモ、他ハ漸次事實ヲ以テ發表スルコトナスベシ

醫學中央雜誌ハ斯ノ如キ雜誌ニシテ、未ダ本邦ニ其比類ナキノミナラズ、一旦之ヲ閱讀スレバ又況ク多數ノ雜誌ヲ閱讀スルノ必要ナク、實ニ研究家幷ニ實地家ノ必携スベキ寶典タリ。

明治三十六年三月

東京市本鄉區春木町三丁目三十二番地南江堂支店内

醫學中央雜誌社

第壹號ヨリ講讀希望ノ方ヘハ何時ニテモ取扱ヘ差出可申候

図４

倣ヒ。主トシテ、内國醫事雜誌ニ登載サラレタル論著及ビ實驗ヲ各科ヲ分チテ悉皆漏ラサズ抄録シ。加フルニ、各科名家ノ論説。外國醫事誌ニ登載サラレタル論著及ビ實驗中特ニ診斷幷ニ治療ニ關スルモノヽ抄録。内外學會紀事。新藥及ビ新器械。内外新刊書籍等ヲ掲載シ。以テ、熱心ナル研究家ニハ文籍穿索ノ便ヲ與ヘ、多忙ナル實地家ニハ一見醫界ノ趨勢ヲ知ルノ益ヲ與フルヲ主旨トス。」

とある（原文ママ）。当時ドイツでさかんに刊行されていたZentralblatt（中央雑誌）とりわけ医事領域のものに倣って医学中央雑誌を発刊したこと、国内の医事雑誌に掲載された論著や実験を各科に分けて収録すること、外国の論著や実験も役立ちそうなものは収録すること、その他の情報も集め、研究家にも臨床家にも役立つものを意図したことが読み取れる。

３．雑誌からデータベースへ

1981年、「医学中央雑誌将来計画検討委員会」が設置された。発刊当時の1903年の収載データ数は1,886件だったが、1981年には年間20万件に達しようとしていた。膨大になった文献量を迅速に処理するためには、機械編集への切り替えが必須との結論が出た。1983年、大日本印刷に委託し、電算処理による機械編集に移行した。大日本印刷に蓄積されたデータは、1991年にリリースされた医中誌CD、2000年にサービスが開始された医中誌Webの基本データとなった。

このように、読み物としての雑誌から、検索するためのデータベースへと変化した。

Ⅳ．「医学中央雑誌にみる恩賜財団済生会100年」について

１．目的

2010年、済生会図書室担当者・図書購入担当者をメンバーとする済生会図書室連絡会が発足した。また、翌年2011年５月30日は済生会が創設されて100年という節目であった。そこで、済生会図書室連絡会の有志で、設立から現在までの済生会の業績をまとめることとした。これが本研究「医学中央雑誌にみる恩賜財団済生会100年」である。

調査した業績は、新たな100年に向けて、医療および医療情報提供サービスの質的向上を目指す資料とする。

また、本研究は、国内最大の医学論文データベースである医学中央雑誌を用いることによる検索スキルの向上も狙いとした。

２．方法

1903年から1982年分は医学中央雑誌（冊子体のハンドサーチまたはデジタルアーカイブ。８巻から413巻)、1982年から現在分は、医中誌Webを検索する。検索したデータを

抽出・分析し、時系列の年表を作成し、考察を加える。

3．医学中央雑誌に掲載された済生会

2011年５月、予備調査として冊子体のハンドサーチを実施した。当時はまだデジタルアーカイブが公開されていなかったため、医学中央雑誌刊行会にて冊子体を利用させていただいた。初期の医学中央雑誌は著者索引がなく、地道にページをめくる作業となったが、その中で、済生会に関する記事が掲載されているページを発見した。いくつかを次に挙げる。

(1)　済生勅語

104号（1911年２月20日発行）の雑報に掲載（http://dl.ndl.ge.jp/info:ndljp/pid/1733725/58）（図５）。

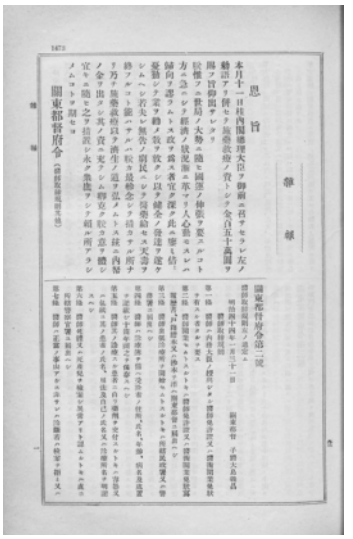


図５

(2)　済生会設立

117号（1911年９月５日発行）の雑報に掲載（http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1733738/56）（図６）。総裁に伏見宮貞愛親王殿下、会長に桂太郎、副会長には山縣有朋、

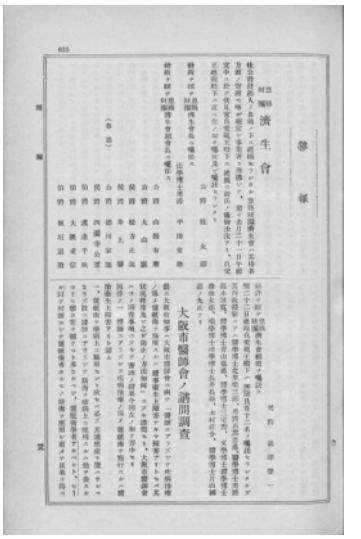


図６

井上馨、西園寺公望、大隈重信、板垣退助、澁澤栄一ら、そのほか北里柴三郎や森林太郎の名も見える。北里柴三郎は医務主管に任じられた。

(3)　診療規程

139号（1912年８月５日発行）の雑報に掲載（http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1732993/64）（図７）。東京市の診療規程であ

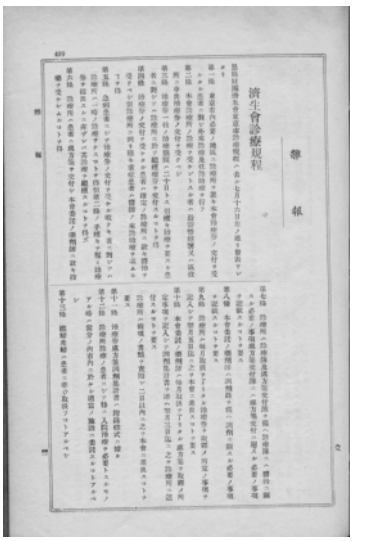


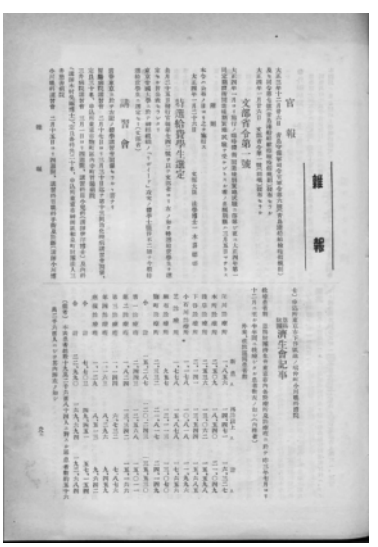
図７

る。済生会で診療を受けたい者は、警察署や区役所で治療券の交付を受け、それを持って診療所へ行くこと、診療所は治療券を毎月取りまとめ、済生会に提出することなどが定められている。済生会病院第１号である神奈川県病院が設立されるのは1913年のことである。1915年に芝病院（現・東京都済生会中央病院、初代院長は北里柴三郎）、1916年に大阪府病院（現・大阪府済生会中津病院）が開設した。

この号は、元号が大正にあらたまった後に発行されたもので、明治天皇への哀悼や、大正天皇の勅語も掲載されている。

(4)　救療患者数

199号（1915年２月５日発行）の雑報に掲載（http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1733055/47）（図８）。半年で済生会が救療した患者数が記載されている。


雜報

官報

支部評議會第一號

特種給費學生選定

諮詢會

救療患者數

濟生會記事

図８

４．今後の予定と課題

冊子体での調査は、昭和期の検索を続ける。Web 版での調査は、検索式の確定が必要となる。済生会という名称がついているが社会福祉法人恩賜財団済生会ではない施設や、社会福祉法人恩賜財団済生会が運営しているが済生会の名称がついていない施設があるためである。後者の例として、公立病院の運営を済生会に委託、あるいは指定管理者として管理させている施設のケースがある。済生会の施設の変遷も併せて確認し、年表を作成する。

冊子体の医学中央雑誌がデジタル化されたことで、所蔵する施設に出向く手間がなくなった。しかしデジタルアーカイブは誌面の画像を公開しているため、テキスト自体の検索はできない。古いテキストは旧字体で成っているため、データ化するのは容易ではないとも聞いたが、将来は創刊号まで遡及して医中誌 Web で検索できるようにする計画とのことで、心待ちにしている。

Ⅴ．おわりに

本研究で、創刊110年をこえる医学中央雑誌が我が国の医療史をひもとくための重要な資料であることを再認識した。東京大空襲後のおよそ１年の休刊を除きたゆまず続刊してきたこと、資料を戦火から守りぬき現代の我々に受け継いできたこと、先人の恩恵は計り知れない。

済生会は、終戦後 GHQ の意向で生活保護法が成立し、困窮者対策は国の責任で行うこととなり存立基盤を失い資金の道を断たれるなど、解散の危機に何度か見舞われながらも、設立以来「施薬救療」の理念を現在まで貫き続けている。

両者の歴史の重みを受け止めながら、本研究を完成させていきたい。

本稿執筆にあたり、NPO 医学中央雑誌刊行会の松田真美様より貴重な情報をいただいたことを感謝いたします。

参考文献

1）済生会図書室連絡会：医学中央雑誌にみる恩賜財団済生会100年.医学情報サービス大会抄録集　2011；28回：28.
2）社会福祉法人恩賜財団済生会ホームページ.［引用2014.8.31］.http://www.saisei-kai.or.jp/
3）堀　賢次.済生会物語復刻版.東京：恩賜財団済生会；2012.
4）日本の医療史済生会って何ですか？1生活困窮者に医療を.日本病院会雑誌　2014；61(5)：543-546.
5）島で待つ人たちのために―瀬戸内海巡回診療船『済生丸』.病院　2011；70(8)：561-564.
6）医学中央雑誌ホームページ.［引用2014.8.31］.http://www.jamas.or.jp/
7）松田真美：国立国会図書館における医学中央雑誌バックナンバー公開の意義とその利用法は？.医学図書館　2012；59(2)：142-145.